

群馬県立沼田高等学校(全日制) 学校評価一覧表① (平成30年度版) (様式1)

羅 針 盤		方 策	第1回点検・評価			第2回点検・評価		
評価対象	評価項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①部活動と勉強の両方に力を入れている生徒が70%以上である。	A 職 88%	A 生 71% 保 71%	部活動に加入している生徒が約93%おり、多くの生徒が文武両道に向けて努力している。調査1週間前の部活動自粛期間の有効活用など、メリハリのある生活を送れるように継続的に指導していく。	B 職 79%	B 生 68% 保 69%	学校生活に慣れ、部活動と学習の両方に力を入れて努力しているという生徒が減ってしまった。あらゆる場面での学習支援と、部活動との両立について継続指導をしていく。
		②「五常の教え」を理解し、挨拶や清掃を積極的に行っていると答える生徒が80%以上である。	A 職 94%	A 生 85% 保 89%	全校集会や学年集会など事あるごとに「五常の教え」について指導し、校内に掲示物を張るなど徹底して浸透を図っている。今後も生徒とともに教職員も積極的に挨拶や清掃活動に取り組んでいく。	A 職 94%	A 生 86% 保 88%	様々な場面で「五常の教え」について指導し、校内に掲示物を張るなど工夫した。今後も継続して生徒とともに教職員も積極的に挨拶や清掃活動に取り組んでいく。
		③栄養バランスに配慮した規則正しい食生活を送っている生徒が90%以上である。	B 職 79%	B 生 82% 保 78%	家庭科、保健の授業では100%を目指して呼びかけている。11月の食育・スポーツ栄養に関する講演会を通じて認識を深め、実践につなげる。またオクレンジャーで情報発信し保護者の理解を深めたい。	B 職 85%	B 生 81% 保 81%	全校生徒対象に講演会を開催し認識を深めることはできた。実践し、習慣になるように定期的に呼びかけを継続する。
		④自分の学校が好きだと感じている生徒は、80%以上である。	A 職 94%	A 生 85% 保 92%	昨年度末の生徒の割合82.4%よりもやや上昇している。引き続き、授業、部活動、HR活動、学校行事等を中心に、生徒の主体性を引き出し、日々の充実感を高めるきめ細かい指導を実践していく。	A 職 94%	A 生 84% 保 90%	沼田高校の特色や強みを再確認し、ビジョンを持って教育活動を実践できるように、職員間で意見と知恵を出し合い、魅力ある学校作りを引き続き努めていく。
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	⑤学習上の疑問に先生が丁寧に答えてくれると感じている生徒が80%以上である。	A 職 97%	A 生 89% 保 77%	校内研修推進委員と連携し、年2回の授業研究会などを通して、授業がより充実した双方向的内容となるように、授業改善を進め、生徒の学力の多様化に対応した指導形態を検討していく。	A 職 97%	A 生 91% 保 83%	幅広い学力層の生徒を抱えている実態の中においても、一人一人の生徒の育成すべき資質を教科横断的に検討し、その指導内容を伝え、そこから生まれた疑問に対して誠実に答えていく。
		⑥少人数・習熟度別授業を肯定的に受けとめている生徒が80%以上である。	A 職 88%	A 生 91% 保 84%	幅の広い学力層に対応できる少人数授業や習熟度授業のメリットが生かせるよう教材・教具を工夫することで、より「わかる授業」となるように、授業改善を重ねていく。	B 職 79%	A 生 90% 保 86%	第1回の評価から教職員の自己評価が下がっている。少人数・習熟度別授業を実施している教職員のうちのフィードバックを参考にして、改善点を引き続き検討していく。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑦授業以外での自学自習時間が2時間以上である生徒が70%以上である。	C 職 53%	B 生 70% 保 62%	生徒の多様化により、学習時間の確保に差違が生じている。学習時間調査のフィードバックや二者面談により、丁寧な指導を展開しているが、十全とはいえない。さらに、保護者会でも統計資料を提示するなど家庭の協力を仰ぎ、今後も不断に指導していく。	C 職 29%	C 生 72% 保 63%	第1回の評価から改善出来るように、学習時間調査、二者面談等を継続して指導しているが、顕著な成果を得ていない。普遍的な課題であり、着実に指導を繰り返すことで、多様化している生徒の学習意欲を育成したい。
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑧学級担任による個人面談が効果的と答えている生徒が80%以上である。	A 職 97%	A 生 90% 保 78%	学校単位、学年単位の進路指導は、「青春の志」実現計画で、計画的に実施されている。特に二者面談は効果的であり、多様化する生徒への丁寧な指導として評価されている。今後も継続したい。	A 職 97%	A 生 91% 保 85%	「青春の志」実現計画により、学年、他の分掌の指導を合わせ、順調に展開している。多様化する生徒に対して、今までの指導実績をもとに、有効な指導を継続したい。
		⑨学年会議や分掌の会議での生徒に関する情報交換が生徒への細やかな対応に反映していると感じている職員が90%以上である。	A 職 91%	B 生 83% 保 71%	学年主任が生徒指導部と進路指導部に所属しており、学年会議に加えて、縦断的かつ横断的な情報交換の機会を確保している。入試制度が変革期にあり、学年毎に必要な情報を精選して、的確な指導を展開したい。	B 職 85%	B 生 87% 保 80%	学年主任が生徒指導部と進路指導部に所属しており、各学年と他の分掌との連携は良好である。しかし、1学年は入試制度の改革期であり、大学側の対応が多様であり、具体的な対策を組みにくい面がある。今後も情報収集に努め、的確な指導を研究したい。
		⑩いじめを容認しない校風づくりと、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に取り組んでいると理解している生徒保護者が80%以上である。	B 職 94%	B 生 74% 保 68%	いじめ防止プログラムに取り組むとともに、生徒の観察、情報収集、職員間の情報交換を密に実施していく。	B 職 97%	B 生 77% 保 77%	いじめ防止プログラムに基づいて、いじめ防止に向けた取組を行っている。いじめがほとんどないため、防止に向けた取組が生徒や保護者に見えにくくなっている。今後は各種掲示物や呼びかけ等を行いたい。
	5 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑪欠席・遅刻をせず、挨拶がきちんと励行できている生徒が80%以上である。	A 職 94%	A 生 83% 保 93%	欠席や遅刻が多い生徒に対し、学年団を中心に連携を取り、素早く細やかに対応できている。昨年度に比べ、大幅に欠席率も低下している。引き続き、気になる生徒への声かけや欠席が続いた生徒への連絡・保護者との連携等を図っていく。	A 職 91%	A 生 83% 保 88%	欠席や遅刻が続いた生徒に、担任が中心となり素早く細やかに対応できているため、欠席率も低いまま推移している。継続して生徒情報の共有、保護者との連携も図っていく。
		⑫月に2回のカウンセラーによる教育相談に理解を示す生徒保護者が80%以上である。	A 職 97%	B 生 72% 保 73%	月2回のスクールカウンセラーの来校が保護者や生徒に余り周知されていない。「スクールカウンセラーだより」や保護者集会などを活用し、周知していく。	A 職 88%	B 生 75% 保 78%	なかなかスクールカウンセラーの来校について、保護者や生徒に余り周知されていない。周知の方法を今後検討したい。
		⑬先生方が親身になって相談に応じてくれると感じている生徒が70%以上である。	A 職 97%	A 生 80% 保 73%	2者面談や気になる生徒への声かけや面談等を継続していく。個々の生徒にあった面談ができるように教職員が研鑽を重ねていく。また、保護者との連絡や相談もこまめに行っていく。	A 職 97%	A 生 86% 保 77%	担任を中心としたきめ細かい面談を行っている。日頃から教員側からの積極的な声かけをしていきたい。
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	6 計画的な指導を行っていますか。	⑭進路に関する学校または学年単位の指導が効果的と感じている生徒が70%以上である。	A 職 85%	A 生 86% 保 83%	「青春の志」実現計画に基づき、各学年と連携して、系統的、発展的な指導を展開する。	A 職 85%	A 生 88% 保 84%	「青春の志」実現計画により、各学年との連携を図りながら、効果的な指導を展開した。近年の進路実績、進路達成率も良好である。今後もさらに発展させたい。
		7 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑮「総合的な学習の時間」を通じ、研究テーマに関する興味関心が一層高まったと答える生徒が70%以上である。	A 職 79%	A 生 74% 保 52%	「総合的な学習の時間」年間計画に従い、課題設定、情報収集、探求活動等を主体的、協同的に取り組ませることで、生徒自身が、キャリアプランを策定する能力を向上させる。	B 職 67%	A 生 75% 保 70%
	8 保護者に積極的に進路情報の発信をしていますか。	⑯模擬試験を有効に活用し、進路決定に役立っている生徒が70%以上である。	A 職 76%	B 生 72% 保 65%	「青春の志」実現計画により、各学年で必要とされる基礎学力の定着を計る指針とする。さらに受験前後の指導を充実させ、その結果を有効活用させる。	B 職 62%	B 生 80% 保 77%	生徒の多様化は、模試結果に反映されている。成績が著しく伸びた生徒もいれば、基礎学力の定着に苦勞する生徒もいる。模試についての振り返りの機会を持たせて有効に活用させたい。
		⑰保護者対象の進路学習会がためになると感じている保護者が70%以上である。	A 職 91%	A 生 73% 保 87%	保護者が参加しやすい日程を検討し、各学年と連携して、進路選択に必要な内容、情報を精選して実施する。	A 職 94%	A 生 79% 保 89%	保護者対象の進路学習会については、外部講師、進路指導主事により、2回実施している。前者は、仕事後の保護者の参加しやすい時間に開催している。後者は、学年保護者会と同時に開催している。今後も継続したい。
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑱PTA総会やPTA保護者会、公開授業等への参加率が70%以上である。	A 職 91%	B 生 84% 保 94%	5月のPTA総会では、目標とする参加率70%まで届かなかったが、PTA行事への肯定的な回答は高い状態を維持しているため、保護者への案内が確実に届くよう工夫していく。	A 職 94%	A 生 86% 保 93%	10月に行われたPTA保護者会では、1学年の参加率が68.6%、2年生が71.1%だった。ほぼ目標としている数値に達しているが、内容や日程についてはしっかりと再検討したい。
		⑲図書館、桔梗館の一般開放に満足している参加者(生徒保護者を含む)が70%以上である。	A 職 82%	A 生 84% 保 87%	一般開放日以外にも、地域に開かれた学校行事の際に桔梗館を開放した。更に一般の方に周知されるように、準備の手順や広報の在り方について検証していく。	A 職 88%	A 生 85% 保 90%	図書館の開放日については、年間行事計画に加えて、図書館報の『館刊楽楽』にも日程を掲載してもらおうなどの、活用できる周知方法を今後も検討していきたい。
		⑳Webページに掲載された情報やオクレンジャーの連絡が役に立っているとらえる生徒保護者が70%以上である。	A 職 88%	A 生 84% 保 96%	更新されておらず現在の教育活動内容と齟齬のあったHPの内容については点検し、更新した。これからも生徒たちの活動や活躍が伝わるような情報を地域や家庭へ発信していく。	A 職 88%	A 生 87% 保 94%	学校Webページでは、中学生や地域の人から関心の高い部活動の実績や学校行事の記録が更新されていない点を早急に改善し、地域へアピールしていきたい。

※A 十分達成できた B 達成できた C もう少しで達成できた D 達成できなかった